

もっと大きな業を行うようになる

(ヨハネ 14:12)



兄弟姉妹の皆さま

復活節が終わりましたが、引き続きキリストのご復活を日常生活の中に生かさねばなりません。信仰を深めるためにこのことをよく考えてみましょう。キリストのご復活からいただいた新しい命はすべての被造物に役立つものです。これを信仰の実践の目標として考えれば良いと思います。復活節、聖霊降臨の後に、三位一体の主日、キリストの聖体、イエスのみ心と続く祭日がありました。その中で皆さまは熱心にロザリオの祈りをミサ前に唱えました。信徒の皆さまが霊的活動に取り組まれることによって信仰が深まります。

ヨハネによる福音 14:12 には、「はっきり言うておく。わたしを信じる者は、わたしが行く業を行い、また、もっと大きな業を行うようになる。わたしが父のもとへ行くからである。」と記されています。

もっと大きな業を行うようになるとはどんなことなのでしょう。私たちの主イエス・キリストの母であるマリア様をはじめ、聖書の中にある他の人が神様の呼びかけに応える体験を少し見てみましょう。

マリア様は14歳であり、乙女でした。主の使いである天使ガブリエルから聞いたそのお告げに対しての最初の反応はただ驚きだけでした。なおかつマリア様は聖霊の力による神の子を身ごもって、イエスを生み、神の母となりました。マリア様を通して神の大きな業が成就されることがわかりました。そのあと神の母となった時点で、神の母としての役割が終わったということではないでしょう。マリア様はすべての人がイエスのもとに来られるようにと、今に至るまで私たちを励まし、助けてくださっています。エリザベトも、弟子たちも、パウロも、神の呼びかけに従いそれぞれの場、それぞれの方法、それぞれの形で神の国をのべ伝えてきました。彼らのおかげで、三位一体の神が聖三位のそれぞれの役割を通して私たちを守り、励まし、永遠の御国に導いて

くださることが理解できます。

では、私たちは「もっと大きな業」を行うようになるのでしょうか。私たちはキリストを見ることはありません。人間としてキリストが生きておられた時代から、はるかに離れているのです。しかし、復活されたキリストは神学的な世界に生きているわけではありません。わたしたちの日常生活の中に生きておられます。キリストが私たちと共にいることを今の時代に生きる人、また後の時代に生まれる人たちに伝えるために、キリストは招いています。もっと大きな業の中に働くためにはキリストとの交わりをいたるところでたゆまずに保つことが大事です。小さく、弱い人間の私たちを通してキリストの偉大さが表されることに信頼しましょう。私たち一人ひとりに託されている命の恵みを無駄にしないこと、神に愛される人として信じること。教会の共同体と共に神を賛美すること。秘跡を通して神に養い育てられることを理解しましょう。神の救いが私たちにもたらされたのですから、すべての人にのべ伝えていくことが大切です。私たちはキリストを見たことはありませんが、見えないキリストを見えるようになるために生きるということが、「大きな業」にならないでしょうか。

今、あなたは独りでいるかもしれません。それとも、他の人と一緒にいても、独りでいるかのように感じているかもしれません。愛している、愛されている人に無視されてしまうことがあるかもしれません。愛する人のそばにいたいのに、共にいることができない悲しみを抱えているかもしれません。生きているのに、生きる意味が分からないかのような生活をしてしまうかもしれません。

友よ、これらすべてのことを乗り越えることができることに信頼しましょう。病気になっても、治ることができることに信頼しましょう。横たわって何もできないとしても、あなたを通して他の人のために神様が働いてくださることに信頼しましょう。すべてが流れてしまって、すべてが無意味だという考えを心から取り除いてください。神様は全能の神でいらっしゃる。ありとあらゆるすべてのことより偉大でいらっしゃる。ただ信頼するだけ、無条件に信頼しましょう。神様は苦しんでいる人を見失うことはありません。なぜなら、人間のために苦しみましたから。大変苦しみました。これを思い浮かべることだけでも、「大きな業」でしょう。神様をあなた方の生活から見逃さないように。

2024年6月

カトリック上野毛教会 主任司祭
ペトルス・ウィリー・ツバ・ドイ O. C. D.